

# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	看護学概論	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	看護専門職業人として、実践の基盤となる個々の看護観を育てるため、看護の本質、看護とは何かを知り、考える。そして看護の現状とその方向性を理解し未来や可能性に対する展望を持つ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	看護学概論で何を学ぶか	看護学全体の中の看護学概論の位置づけ 看護学概論で何を学ぶか 1. 教育課程から 2. 看護学の中の位置づけ	講義	学生便覧 教育課程 国家試験出題基準
2	看護とは何か	1. 看護とは(看護の本質) 1) 看護の変遷 2) 看護の定義	講義	
3		3) 看護の役割と機能 4) 役割・機能の拡大		
4	看護の提供のしくみ	1) サービスとしての看護 2) 看護サービス提供の場	講義	基礎看護学実習 I との関連付け
5	看護における倫理(1)	1) 看護師の倫理綱領 実習における倫理	講義	基礎看護学実習 I との関連付け
6	看護の場と看護の役割	1) 実習の体験をもとに考える	GW	
7	看護の提供者(1)	1) 職業としての看護 2) 看護職の養成制度		
8	看護の提供者(2)	3) 看護職者の教育とキャリア開発 4) 看護職者の養成制度の課題	講義	
9	看護の提供者(3)	5) 看護実践者としての自己理解 6) リフレクション		
10	看護の対象の理解	1) 人間のこころとからだ 2) 生涯発達しつづける存在としての人間 3) 人間の暮らしの理解	講義	
11				
12				
13	健康のとらえ方と国民の健康状態	1) 健康とは 2) 社会の変遷と健康観の変化 3) 人々の生活と健康に関する統計	講義	
14	看護における倫理	1) 現代社会と倫理 2) 医療をめぐる倫理と看護倫理 3) 看護実践における倫理問題への取り組み	講義	
15	まとめ/試験	1) 看護とは何か まとめ	試験	
評価方法	1. 授業参加度および課題提出状況・内容20% 3. ペーパー試験80%			
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学1看護学概論			
参考図書文献	1. 国民衛生の動向 2. 看護の基本となるもの 3. 看護師の倫理綱領 4. 看護覚え書き 他社の看護学概論: 南江堂、日本看護協会、メジカルフレンド、ヌーベルヒロカワ、メディカ出版			
備考				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、成人期の対象について教育を行う科目			

# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	基本技術論		
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間		
担当者資格	看護師	経験有無	有		
学習目標	1. 看護技術の概念がわかる。 2. 看護技術の基本となる基本技術の意義・目的がわかる。 3. 基本技術の方法がわかり手技が身につく。				
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針	
1	技術の概念	1. 看護技術とは 2. 看護技術の基本的要素 3. 看護技術習得のコツ	講義 GW	体位変換の方法と本日の理論を整理する	
2.3	看護における安全 安楽・自立・経済性とは	1. 安全とは 2. 安楽とは 3. 経済性とは 4. 自立とは 5. 医療安全	講義 GW		
4.5	動作の経済性とは	1. 動作の経済性を高める技術 1) ボディメカニクス 2) 看護行為とボディメカニクス	GW 発表 演習		
6.7	観察・情報	1. 観察とは何か 2. 観察の目的 3. 観察の方法 4. 観察の手段 5. 観察の効果を挙げる 基本技術がわかる	講義 演習 GW		
8.9	記録・報告	1. 看護記録の機能と法的意義 2. 看護記録の基本的要素と記録様式 3. 記録の留意事項 4. 記録ができる	講義 演習		
10.11.12	感染予防	1. 感染成立の条件 2. 感染源対策 滅菌法・消毒法 3. 感受性宿主対策 4. 感染経路対策 スタンダードプリコーション 5. 無菌操作	講義 演習 小テスト		
13.14	学習支援	1. 学習支援とは 2. 健康教育の意義 3. 学習支援の基本となるもの 4. 学習支援の進め方	講義 演習		
15	まとめ 試験				
評価方法	筆記試験1回				
テキスト	系看 専門 2 基礎看護学[2] 「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 系看 専門 3 基礎看護学[3] 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 看護技術がみえる1・2 メディックメディア				
参考図書文献	坪井良子・松田たみ子 「考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」 ニューベル・ヒロカワ 三上れつ・小松万喜子 「演習・実習に役立つ基礎看護技術」 ニューベル・ヒロカワ				
備考					
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、看護技術の基本を概念から手技について教育を行う科目				

看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	フィジカルアセスメント	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	1. 看護者によるフィジカルアセスメントの必要性と目的が理解できる 2. フィジカルアセスメントができる 3. フィジカルアセスメントの基本技術を習得し、患者の正常な状態が判断できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントとは スクリーニングと系統的アセスメントについて	講義	
	フィジカルアセスメントの基本的な手技	問診 聴診 視診 触診 打診	演習	循環器の解剖生理学の復習 呼吸器の解剖生理学の復習
2	バイタルサイン	バイタルサインとは、目的	講義	
3		バイタルサインの測定 脈拍測定 バイタルサインの測定 呼吸・体温・血圧	演習	
4	血圧測定	バイタルサインの測定 血圧 シミュレーション学習	演習	血圧測定が行えるように練習を重ねる
5	バイタルサイン 身体測定	意識レベル 身長 体重 腹囲 測定		
6	呼吸器のフィジカルアセスメント	正常な呼吸音と異常音の聴取 事例学習	講義	呼吸器の解剖生理学の復習 事前課題
7				
8	循環器のフィジカルアセスメント	正常な心音の聴取 末梢血管系 事例学習	講義	循環器の解剖生理学の復習 事前課題
9				
10	腹部のフィジカルアセスメント	正常 異常音の聴取 打診 触診 事例学習	講義	腹部の解剖生理の復習 事前課題
11				
12	四肢のフィジカルアセスメント	筋・骨格系 関節可動域 日常生活動作 徒手筋力測定	講義	筋・骨格の解剖生理の復習
13	神経系のフィジカルアセスメント	生命維持機能の観察 髄膜刺激症状 脳神経系 運動機能 知覚機能 反射 小脳機能 高次脳機能の評価	講義 演習	脳神経系の解剖生理の復習
14	呼吸・循環・腹部のフィジカルアセスメント	呼吸・循環・腹部のフィジカルアセスメント 演習(学生同士でフィジカルイグザミネーション)	演習	発表会までに教師の指導を受けながらグループごと準備を進める。
15	まとめ 試験			
評価方法	筆記試験	小テスト 授業参加度	提出物提出状況	
	血圧測定は 知識確認試験・実技試験 に合格していること			
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学[2] 熊谷たまき他:フィジカルアセスメントが見えるメディックメディカ			
参考図書文献	横山 美樹 :はじめのフィジカルアセスメント メジカルフレンド社 山内豊明:フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 村上 美好監修、堺 隆弘医学指導:写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント 小野田千恵子:実践.フィジカル・アセスメント 看護者としての基礎技術 金原出版株式会社 藤崎 郁 :フィジカルアセスメント完全ガイド 学研			
備考				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、看護師として重要なアセスメント力について教育を行う科目			

# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	看護過程方法論	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	科学的思考、問題解決的思考をもとに、看護過程における思考の方法を理解する 肺炎の事例を使って、情報把握・アセスメント・看護目標までの展開を学ぶ			
回数	学習課題	学習内容並びに方法	備考	
1	看護過程とは 情報のアセスメント	問題解決過程・人間関係過程・意志決定過程・ 看護過程の構成要素 ステップ アセスメントとは	この看護過程の展開は、 これからの実習で使う 共通な基本的考え方である  書き方でなく、考え方を学んでほしい	
2.3	病像の把握	病像の構成要素 関連図 経過のアセスメント 関連図と経過のアセスメントの統合		
4	生活像の把握	生活像への視点の導き出し 生活項目への視点の展開 生活項目のアセスメント 生活7項目の統合		
5	社会像の把握	社会像の情報項目 社会像のアセスメントの統合		
6	全体像を描く 看護目標の設定	病像・生活像・社会像を統合し全体像を描く 看護目標の考え方 全体像から看護目標を導き出す		
7	看護計画立案 実施 評価	看護目標の根拠・具体策の裏付けの考え方 具体策立案 日々の実施評価のすすめ方		
8~14	肺炎の事例による 看護過程の展開	肺炎の事例による病像・生活像・社会像の 情報把握とアセスメント  全体像を描く 看護目標を設定する		・演習 担当教師の指導を受けながら行う
15	看護過程の評価	看護の実施・看護計画の評価の要素		IV期実習前に行う
評価方法	肺炎の事例の内容で評価する			
参考図書 文献	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 学習疾患に該当するもの 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研 その他 解剖生理学・病理学・疾患理解、看護の理解に必要な文献			
備考				
授業科目 の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、看護過程における思考の方法について教育を行う科目			

# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	生活援助技術論 I	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	1. 人間にとっての日常生活行動の意義が理解できる。 2. 生活過程を整える看護の目的と方法がわかる。 3. 生活過程を整える援助技術が習得できる。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	生活とは	1. 生活行動の内容と目的を考える	GW	自分の生活行動から生活とは何か考える
2	生活行動とは何か	2. 生活行動とは何か考える。	講義	
3	環境を整える意義	1. 環境とは 2. 環境を整える意義 3. 環境を整える援助	講義	看護構造機能論「呼吸」「循環」「体温調節」
4.5	ベッドメイキング	1. ベッドメイキングの目的と方法 2. 教師によるデモンストレーション 3. ベッドメイキングの実施	講義 演習	手順・手技の根拠を理解し、ポイントを確認しながら練習する。出来栄を評価しつつ上達を目指す。
6	衣服を用いる意義	1. 衣服を用いる意義 2. 健康を維持する衣生活の条件 3. 衣服を用いることへの援助	講義	
7.8	寝衣交換ができる	1. 寝衣交換の目的と方法 2. 教師によるデモンストレーション 3. 寝衣交換の実施	講義 演習	
9	身体の清潔を保持する意義	1. 皮膚の生理機能 2. 身体の清潔が保持されない時の影響 3. 清潔を保持する方法と身体への影響 4. 清潔を保持する援助	講義	看護構造機能論「皮膚」
10.11	洗髪ができる	1. 洗髪の目的と方法 2. 教師によるデモンストレーション 3. 洗髪の実施	講義 演習	
12.13	全身清拭ができる	1. 全身清拭の目的と方法 2. 教師によるデモンストレーション 3. 全身清拭の実施	講義 演習	
14	陰部洗浄ができる	1. 陰部洗浄の目的と方法 2. 教師によるデモンストレーション 3. 陰部洗浄の実施	講義 演習	
15	まとめ 試験			
評価方法	筆記試験(環境を整える 衣服を用いる 清潔を保持する) 技術試験(ベッドメイキング 洗髪 全身清拭 寝衣交換)			
テキスト	医学書院 「基礎看護学技術Ⅱ」系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 メディックメディア 看護技術がみえる 1・2 看護の科学社 新訂 生活行動援助の技術			
参考図書文献	スーベルヒロカワ 演習・実習に役立つ基礎看護技術 基礎看護学 メジカルフレンド社 基礎看護技術 基礎看護学③			
備考	患者さんの生活を整える技術は、まずは自分の生活を自分で整えるところから始まります。 学習した内容を、自分の生活に役立て、健康的な生活を心がけましょう。 自分の生活が丁寧な看護師は、丁寧な生活行動援助ができるようになります。			
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、生活課程を整える看護の目的や方法について教育を行う科目			

# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	生活援助技術論 II		
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間		
担当者資格	看護師	経験有無	有		
学習目標	1. 人間にとっての日常生活行動の意義が理解できる。 2. 生活過程を整える看護の目的と方法がわかる。 3. 生活過程を整える援助技術が習得できる。				
回数	学習課題	学習内容		方法	自己学習の指針
1	排泄の意義	1. 排泄のメカニズム	4. 排泄に影響を及ぼす因子	講義	看護構造機能論
2		2. 排泄の意義	5. 排泄の援助		「体液の調節と尿の生成」
3	床上排泄	3. 排泄の正常と異常		ビデオ	「栄養の消化と吸収」
4	おむつ交換ができる	1. 床上排泄の目的と方法		演習	基本技術論「感染予防」
		2. 床上排泄の援助の実際		演習	
5	導尿ができる	1. おむつの特徴と使用方法			
		2. 教師によるデモンストレーション			
		3. おむつ交換の実施			
6		1. 導尿の目的と方法	4. 栄養状態の評価	講義	基本技術論「無菌操作」
7	食べる意義	2. 導尿の実施	5. 食べることへの援助	演習	基本技術論「記録・報告」
		3. 消化吸収と摂取行動		講義	看護構造機能論
		1. 食べる意義			「栄養の消化と吸収」
		2. 栄養素と必要摂取量			栄養と代謝
8	食事介助ができる	3. 食事介助の目的と方法		講義	
		2. 教師によるデモンストレーション			
		3. 食事介助の実施		演習	
	口腔ケアができる	1. 口腔ケアの目的と方法		講義	
		2. 教師によるデモンストレーション			
		3. 口腔ケアの実施		演習	
9	休息・睡眠をとる意義	1. 休息・睡眠をとる意義		講義	看護構造機能論
		2. サーカディアンリズムと身体の変化			「脳と睡眠」
		3. 休息・睡眠を促す援助			
10	活動する意義	1. 活動の意義	4. 日常生活動作	講義	看護構造機能論
		2. 運動の効果	5. 活動を促す援助		「からだの支持と運動」
		3. 安静が身体に与える影響			
11	安楽な体位が保持できる	1. 同一体位の問題点		演習	基本技術論「ボディメカニクス」
		2. 安楽な体位を考える			
		3. 安楽な体位を保持する工夫と発表			
12	体位変換ができる	1. 力学の基礎理論の復習		講義	
		2. 教師によるデモンストレーション		演習	
		3. 体位変換の実施			
13	患者の移乗・移送	1. 移送の目的と方法		講義	
14	ができる	2. 教師によるデモンストレーション		演習	
		3. 移乗・移送の実施			
15	まとめ 試験				
評価方法	筆記試験(食事する 排泄する 休息・睡眠をとる 活動する) 技術試験(導尿 移乗・移送)				
テキスト	医学書院 「基礎看護学技術Ⅱ」系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 メディックメディア 看護技術がみえる 1・2 看護の科学社 新訂 生活行動援助の技術				
参考図書文献	メジカルフレンド社 基礎看護技術 基礎看護学③ スーベルヒロカワ 演習・実習に役立つ基礎看護技術 基礎看護学				
備考	患者さんの生活を整える技術は、まずは自分の生活を自分で整えるところから始まります。 学習した内容を、自分の生活に役立て、健康的な生活を心がけましょう。 自分の生活が丁寧な看護師は、丁寧な生活行動援助ができるようになります。				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、生活課程を整える看護の目的や方法について教育を行う科目				

# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	診療に伴う看護技術論	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	1. 治療・処置・検査の意義が理解できる 2. 治療・処置・検査を受ける対象への看護の目的と方法が理解できる 3. 治療・処置・検査を受ける対象への看護技術が身に付く			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	穿刺の方法	胸腔穿刺 腹腔穿刺 骨髄穿刺 腰椎穿刺	講義 演習	穿刺部位の解剖学については自己学習。
2	吸引	一時的吸引 口腔 鼻腔 気管内吸引 持続吸引 胸腔ドレナージ	講義	体位ドレナージについては自己学習
3	吸入 ネブライザー	吸入の種類	講義	
4	酸素吸入	酸素吸入時の原則 酸素ボンベの取り扱い 酸流量計の取り扱い 経鼻カニューラ・マスク その他の種類	講義	
5	電法	電法の種類と方法、留意点 温電法 冷電法	講義	事前学習
6	薬剤の知識と取扱い 与薬法	薬物療法の看護 薬剤の取扱い 正しい与薬 注射法		
7	注射法 (自己学習時間を含む)	筋肉注射・皮下注射		皮下注射の手順・根拠・留意点は個人で学習しデモンストレーションまでに準備する
8		静脈内注射		
9		高カロリー輸液 輸液と管理 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い		点滴静脈内注射の手順・根拠・留意点は個人で学習しデモンストレーションまでに準備する
10		経口 塗布 点眼 吸入 経直腸	演習	
11		静脈点滴内注射	講義 GW	
12.13	検査時の看護	各検査への援助 静脈血採血 動脈穿刺 尿 便 喀痰 内視鏡検査	講義	静脈内採血の手順・根拠・留意点は個人で学習しデモンストレーションまでに準備する
14		演習 静脈血採血	演習	
15	演習 (自己学習時間を含む)	酸素吸入・吸引・体位ドレナージ演習 輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習	事前学習
評価方法	筆記試験 提出物提出状況 静脈内採血・皮下注射・点滴静脈内注射は、知識確認テスト・技術試験に合格していること			
テキスト	藤崎 郁 著 :基礎看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 医療情報科学研究所編集:看護技術が見えるvol.1・2 メディックメディア			
参考図書 文献	竹尾 恵子監修 看護技術プラクティス 学研 三上れつ 小松万喜子編 演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして ヌーベルヒロカワ			
備考	演習は時間外の時間での学習になることがある。			
授業科目 の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、成人期の対象について教育を行う科目			

看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	人間関係技術論	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	心理学講師、看護師	経験有無	有	
学習目標	<p>A・他者の話に傾聴できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共感的理解について体験的に理解する</li> <li>・自己のありようを他者との関係の中で理解する</li> <li>・他者との関係の中でアサーティブなコミュニケーションができる</li> </ul> <p>B1. グループ活動の中で、リーダー・メンバーの役割が果たせ、リーダーシップ、メンバーシップについて体験から考察できる</p>			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
A スタディー センターⅡ (15時間)	他者との相互作用の中での他者理解  自分の感情や考えの表出方法	交流分析、ロールプレイングなどを通して、自分と他者との関係を分析し関係のありようを理解する。  グループワークを通して、アサーティブに自己表現ができる。	体験学習  レポート	
B 救護演習 15時間	1. グループでの救護活動を通し、グループ目的を達成していくための、リーダーシップ・メンバーシップを学ぶ	1. グループでの救護活動 隊列訓練・担架操作・テント設営 救急法  2. オリエンテーリング  演習後、グループで振り返る	演習	
評価方法	1. レポート 2. 参加時間・状況			
テキスト	看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学 浦田喜久子他 医学書院 配布資料			
参考図書 文献	<p>命とところを救う災害看護 小原真理子監修 学習研修者          災害看護一心得ておきたい基本的な知識一 小原真理子他 南山堂          災害看護一人間の生命と生活を守る一 黒田裕子他 メディカ出版          災害看護学テキスト 実践編 南裕子他 日本看護協会出版会          救護班要員マニュアル 日本赤十字社          1. 最新 交流分析、イアン・スチュアート著／深沢道子監訳、実務教育出版          2. クリエイティブ・ヒューマン・レイションズ、プレスタイム          その他、随時提示</p>			
備考				
授業科目 の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、成人期の対象について教育を行う科目			



# 看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	経過別看護	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	1. 対象の健康レベルの各期の特徴と看護の目的が理解できる 2. 健康レベルに応じた看護が理解できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	経過に基づく看護の意義	1. 経過別看護の捉え方(看護の主要概念) 2. 経過別看護の視点 3. 経過別看護の特性	講義 GW	担当した時期の理解を深める  授業終了時課題提出①  最終課題提出②
2	各期における患者の理解・看護	1. 時期の定義	GW	
3		2. 患者の身体的・精神的・社会的・生活上の特徴	講義 知識確認 ミニテスト	
4		3. 治療上の特徴と患者への影響		
5		4. 治療の場の特徴		
6		5. 患者を持つ家族の理解	GW	
6	急性期の看護	1. 急性期の特徴、患者・家族の特徴(グループ共有) 2. 急性期における看護 3. 理論	講義 知識確認 ミニテスト	
7	回復期の看護	(コーピング・危機理論・インフォームドコンセント・アドボカシー)	GW 講義 知識確認 ミニテスト	
8		1. 回復期の特徴、患者・家族の特徴(グループ共有)		
9		2. 回復期における看護 3. 理論 (QOL・エンパワメント学習理論・自己効力感・)		
10	慢性期の看護	1. 慢性期の特徴、患者・家族の特徴(グループ共有) 2. 慢性期における看護 3. 理論	GW 講義 知識確認 ミニテスト	
11	終末期の看護	(病みの軌跡理論・アドヒアランス・コンプライアンス・アドボカシー・)	GW 講義 知識確認 ミニテスト	
12		1. 終末期の特徴、患者・家族の特徴(グループ共有)		
13		2. 終末期における看護 3. 理論 (死にゆく患者の心理過程・緩和ケア・喪失悲嘆・グリーフケア)		
14・15		DVD鑑賞をし終末期にある患者を理解する	GW	
評価方法	グループワークへの参加状況・授業への参加態度 課題提出 知識確認ミニテストの出来栄			
テキスト	川島みどり、菱沼典子監修:臨床看護叢書 2 経過別看護 メジカルフレンド社 事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門 日総研 鈴木志津枝、藤田佐和編集:成人看護学 慢性期看護論 ヌーベルヒロカワ 鈴木志津枝、内布敦子編集:成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ヌーベルヒロカワ 林直子、佐藤まゆみ編集:成人看護学 急性期看護 I・II 南江堂			
参考図文献	「死ぬ瞬間」キューブラ＝ロス			
備考				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、主要症状の看護について教育を行う科目			

看護学科

分野	専門分野 I	授業科目	症状別看護	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	主要症状の発症メカニズムを理解する。 主要症状を引き起こす原因を理解し、症状に応じた看護の方法を学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1.2	発熱	発熱の発生メカニズム ・体温調節のメカニズム ・体温の変動因子 ・発熱/高体温の定義 ・発熱/解熱のメカニズムと随伴症状	講義 ・発熱の原因 ・発熱の成り行き ・発熱に対する主な治療	解剖生理学 体温とその調節
3		発熱のある患者の看護 ・観察とアセスメント	講義 ・看護の方法	
4.5	浮腫	浮腫の発生メカニズム ・浸透圧とは ・体液の生理 ・浮腫の定義 ・浮腫発生のメカニズムと随伴症状	講義 実験 GW 講義 ・浮腫の成り行き ・浮腫に対する主な治療	解剖生理学 末梢循環系の構造 微小循環 リンパ管 病理学 体液の調節障害 看護構造機能論:(体液)復習
6	脱水	脱水の種類・原因・発生メカニズム	講義 ・脱水の重症度と随伴症状 ・脱水に対する主な治療 ・輸液の種類と注意点	体液の生理復習
7		脱水状態にある患者の看護 ・観察とアセスメント	講義 ・看護の方法	
8	ショック	ショックの原因・発生メカニズムと症状	講義 ・ショックスコア ・ショックに対する主な治療	看護構造機能論:(循環)復習
9.10		・血液循環に影響を及ぼす因子 ・ショックの定義 ・ショックの種類 ・ショックの原因、誘因とメカニズム ・ショックの経過に伴う徴候と成り行き		
11		ショック状態にある患者の看護 ・観察とアセスメント	講義 ・看護の方法	
12	悪心・嘔吐	嘔気・嘔吐の発生メカニズム・原因 ・悪心、嘔吐のメカニズムと定義 ・悪心、嘔吐の発生要因 ・悪心、嘔吐の随伴症状となりゆき ・悪心、嘔吐の主な治療	講義 嘔気・嘔吐のある患者の看護 ・観察とアセスメント ・看護の方法	
13	便秘・下痢	便秘・下痢の発生メカニズム・原因 ・排便のしくみ ・便秘、下痢のメカニズムと定義 ・便秘、下痢の発生要因 ・便秘、下痢の随伴症状と成り行き ・便秘、下痢の主な治療	講義	
14		下痢・便秘のある患者の看護 ・観察とアセスメント	講義 ・看護の方法	
15	まとめ 試験			
評価方法	筆記試験 ミニテスト			
テキスト	高木永子監修:看護過程に沿った対症看護 学研 系統看護学講座 専門基礎1 解剖生理学 医学書院 川島みどり、菱沼典子監修:臨床看護学叢書 1 症状別看護 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 渡辺照男編集:病理学 ヌーヴェルヒロカワ 堺章著:目でみるからだのメカニズム 医学書院			
備考	症状が現れるメカニズムを理解するには、正常な機能(解剖生理)について理解していることが前提となります。関連する解剖生理の範囲を予習(復習)してから、授業に参加して下さい。 また、日頃、自分が日常で体験する症状の随伴症状や、原因・なりゆきは、授業内容を理解するのに大いに役立ちます。自分の身体面の様子に敏感になりましょう。			
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、成人期の対象について教育を行う科目			